

様式 2

平成 30 年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

学校名

伊東市立西小学校

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

1 実践テーマ	【 Ⅲ・Ⅴ 】
2 実施対象者	伊東市立西小学校 6 年生 55 名 伊東市立北中学校 1 年生 52 名 静岡県東部特別支援学校伊東分校 中学部 17 名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（体育・総合的な学習の時間）② 行事名（ ） ③ その他（北中学校・東部特別支援学校伊東分校との交流授業） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	1 ボッチャというスポーツに触れることをきっかけに、障害者スポーツに対する理解を深める。 2 特別支援学校生徒との交流を通し、スポーツを通じた共生教育の推進。 3 地元出身のパラリンピックメダリストとの交流を通して、スポーツを楽しむ心の育成。
5 取組内容	○事前学習（10 月後半） ・パラリンピックの歴史や種目、ボッチャというスポーツについて、学年でレクチャーを行った。また、リオデジャネイロ・パラリンピックのボッチャ競技で、銀メダルを獲得した選手が、伊東市出身で、しかも西小のすぐ近くの職場に勤務している方だということを伝えた。 ・杉村選手のご厚意で、ボッチャのルール講習会を開いていただいた。当日審判を務めてくれる北中の生徒と、西小の教諭たちが、杉村選手の職場に出向き、設置されているコートを利用させていただきながら受講した。 ・体育の授業でボッチャに取り組み、ルールを覚えた。 ○事前準備等 ※3 校が協力 ・会場の西小では、職員が体育館にボッチャコートを作成。 （ミニコート 10、正規コート 1） ・北中では、1 年生徒が当日の開・閉会式を担当した。また当日の審判を担当し、得点板・投球表示を作成した。 ・伊東分校では、用具（ボッチャボール）を本校に借用。 ・各校で 1 チーム 6 人組を作っておいた。

※北中生徒が作成した得点ボード（10コートそれぞれデザインが異なる）



○交流日当日（11月2日）

（1）開会式（北中生徒）

- ・開会あいさつ
- ・趣旨説明
- ・指導者紹介
- ・杉村選手あいさつ
- ・競技説明と模範演技



（2）交流競技

- ・西小9チーム、北中8チーム、伊東分校3チーム、計20チームで他校と対戦するように、3試合実施。1試合につき、2エンド実施。
- ・北中生は、審判をしながら試合を行った。



- ・杉村選手は、各コートを回りながらアドバイス



(3) 閉会式（北中生徒）

- ・開会あいさつ
- ・結果発表
- ・質疑応答
- ・お礼の言葉
3校より代表



○事後学習（11月2日以降）

- ・2日の交流の感想記入
- ・杉村選手、伊豆介護センター職員へのお礼のメッセージ作成
- ・たてわり活動の時間に、全校児童でボッチャに挑戦（12月5日）
6年生が下級生にボッチャを指導し、楽しむ





6 主な成果

- ・事前学習では、障害者スポーツというものがあることを知り、初めはスポーツといっても簡単で手軽なものというイメージを持っていた子どもたちが、体育の授業で実際に取り組んでみると、思った通りにボールがコントロールできないこと、また、チームで作戦を立てる必要性を感じるようになり、ボッチャというスポーツのおもしろさや難しさ、奥深さを知るようになった。
- ・筋力や瞬発力などの運動能力にあまり関係なく参加できる競技であることを知った子どもたちは、自分たちが経験したこの競技を、下級生にも楽しませることができると考え、たてわりで紹介することを思いついた。
- ・日頃交流のある伊東分校では、授業でボッチャを行うことがあることを知り、パラリンピックというものの方が身近に感じられるようになった。
- ・交流当日、杉村さんと出会い、講話やデモンストレーションを見せてもらい、障害のある方でも、メダルを獲得するほどの技術や戦術を身につけるには、相当の努力をしていることを知り、感動していた。
- ・また、試合中、相手のことを重んじる態度やルールを守ってプレーする大切さを知り、杉村選手をアスリートとして尊敬する気持ちが芽生えた。
- ・オリンピックだけでなく、世界へ試合をしに行くことも知り、地元伊東市出身の杉村選手を誇りに思う気持ちを持つようになった。
- ・1学年年上の北中1年生、分校の中学部生徒と、緊張感なく仲良く試合に臨み、勝ったり負けたりしながらボッチャに親しむことができた。



7実践において工夫した点 (事業の特色)	・講師の選定では、西小・北中ともに、特別支援学校との交流があることを生かし、また、伊東市出身のメダリストが学区にいるという環境にも注目し、パラリンピックメダリストの杉村選手に依頼をした。 ・西小学校と東部特別支援学校伊東分校とは、校舎を共有しているという利点から、日頃より交流活動を行い共生教育の推進を図っているが、6年生は中学部の生徒とは交流の機会がなかった。今回はこの事業を通し、西小では交流の輪を広げることになった。 ・伊東分校の生徒と北中の生徒とは交流しているが、3校合同で交流することがなかったため、初めての試みとなった。
8主な課題等	・交流会当日は、伊東分校や講師の会社からボッチャのボールを借用し、プレーすることができたが、たてわり活動の際にはボールが足りず、運動会の玉入れの球で代用するグループがあった。玉入れの球でも十分、試合を楽しむことはできる。しかし、せっかくボッチャの楽しさを感じたので、今後日常的にボッチャを楽しみたいとなると、ボールセットを学校でもう少し購入しておく必要がある。 ・各校とも、校種が異なることもあり、3校合同でこのような交流が可能な時期を模索するのが厳しい状況である。また、交流可能な人数は、西小、北中両校とも1学年がせいぜいである。
9来年度以降 の実施予定	・来年度も3校での交流を進めるならば、やはりボッチャで継続させることが一番であると感じている。そうすると講師杉村選手が来校可能かどうか、スケジュール調整がまず必要である。パラリンピック前年ということもあり、大事な試合への出場やナショナルチームでの練習にも参加することと思われる。 ・パラリンピックへの理解、関心を高めていくにはやはり、杉村さんのような講師の来校・講演を依頼したい。 ・校種の異なる3校（小・中・特別支援）のため、実施可能な時期を探ることが難しい。